

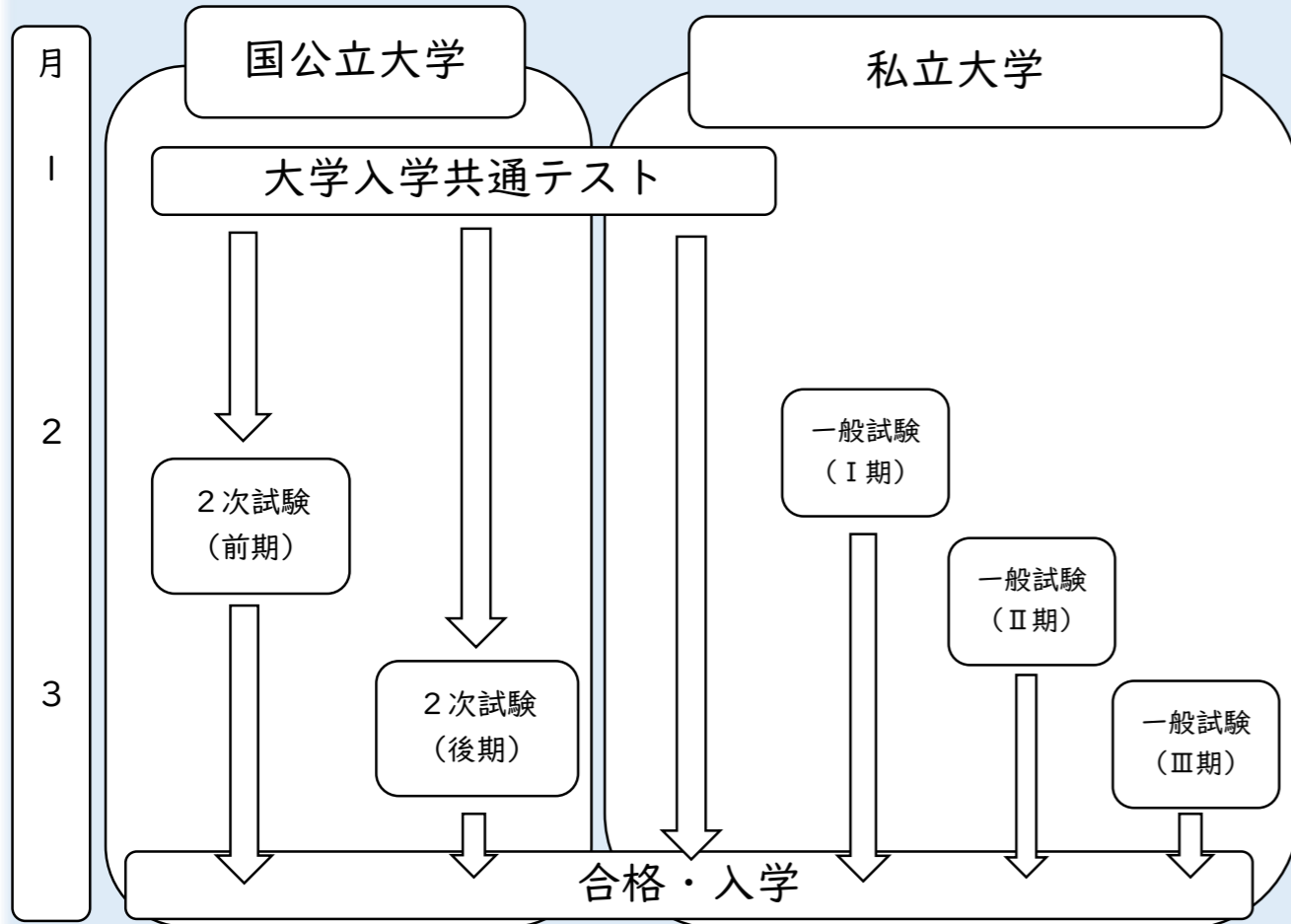


●大学入学共通テスト徹底分析！

今月号は1月16、17日に実施された大学入学共通テストの科目ごとの分析を各教科の先生方にまとめていただきました。大学進学者にとっては避けては通れないテストになっているので、しっかり読み込んで学習に励みましょう。

●大学入学共通テストとは？

大学入学共通テスト（以下共通テスト）は国公立大学、私立大学の両方の入試に活用される試験です。国公立大学の入試においてはこの共通テストが1次試験の役割を持っています。そのため、国公立大学の受験を考えている人にとっては非常に大切な試験となります。また、私立大学の入試においては一般試験（私立大学独自の入試問題を課す試験）と併用して活用できるため、合格のチャンスがぐっと増えます。そのため、どの大学を受験するにしても受験すべきテストとなります。以下が国公立と私立大学それぞれの入試の流れとなります。



私立大学においては共通テストは必ずしも受けなければならない試験ではありません。しかし、受けておけば、いくつでも併願受験が可能になります。（私立の一般入試は複数の大学の受験日が重なることもあり、併願ができない場合があります。）そのため、共通テストでしっかりと点数を取ることで入試を有利に進めることができます。

●国語

問題文は例年のセンター試験並の本文量と難易度。例年漢字は難易度が高くないので必ずこの10点分は正解したい。内容に関わる問いも紛らわしいものはないので、どこに何を書いているのか本文全体を把握しながら読み取る必要がある。問6は新しい形式であったが、日頃から段落構成を理解し、本文の要旨を押さえられる力が求められていると感じた。小説としては古い文章なので読みにくい。心情を問われるのは例年どおり。語句は易しい。問6で本文に対する批判的な批評文を取り上げ、解釈の多様性に基づく出題があり、新しい形式の問いであった。

古文は『栄花物語』からの出題。本文量は少なかったが敬語や和歌の理解が必要。単独での文法問題はなかったが、文法の力を使って本文を読み取らないと理解できないので、文法の力は必要。他作品と比較させる問いは新傾向であるが、模試等でも問われている形式なので戸惑うことはないように思う。漢文は問題文内容は難解なものではないので正解は選びやすい。語句や訓読、解釈は例年どおりであり、普段から「漢文必携」などで重要語を理解しておく必要がある。

●数学Ⅰ・A

公式や定理を覚えるだけでなく、ある値の変化によって考察したい値がどのように変化するかという事象の捉え方ができるかが求められる。例えば、 $\cos A$ においてAの角が鋭角か直角か鈍角のいずれかのとき、 $\cos A$ の値は正の値、負の値、0のどれになるか。

数ⅠA・数ⅡB全体的に立式したものを考察することにより、規則性を捉えるという内容の問題が増えた。記述が苦手だったり、暗算で式と飛ばしながら問題を解く人は、解答を立式からきれいに書くことの練習を行うことが望ましい。

●英語（リーディング）

第1～6問において全てが読解問題になっていることが最大の特徴である。そのため、日頃から長文を読み、内容を理解する訓練が欠かせない。語彙や文法問題は出題されなくなったが、長文を読み解く上では大切な力であり、私立大学の一般試験ではまだまだ出題される可能性が高いため、おろそかにすることのないように取り組もう。さらに、英文を読み解いていくだけでなく、図表やグラフなどの情報を総合的に理解し、必要な情報を抽出して問題を解く力が求められるため、常に要点が何なのかを考えながら英文を読む練習を行いたい。

時間制限も80分と長いようで問題を解ききるには短い設定となっている。じっくり英文を読んで理解するような時間はなく、本番ではそれなりのペースで問題を解いていく必要がある。そのため、日頃の演習から問題を解く時間を気にして、いかに早く正確に問題に取り組めるかを意識する必要がある。傍らにストップウォッチ等を置いて時間を計測しながら問題を解くとよい。

満点を取ろうと思うとかなり苦しいが、前半の3問（約50点）は比較的点数を取りやすい問題になっている。これらの問題をしっかりと押さえて、後半の問題でどれだけ稼げるかが勝負になる。

●英語（リスニング）

従来のセンター試験の内容と比較すると問題量が2倍（音源の長さも2倍：15分→30分）になっており、長時間集中が必要な問題となっている。さらに、第3問以降は音声が入らずしか流れないため、1回で発言・会話の内容の把握と短時間での解答が求められる。一見、センター試験と比較すると難易度がぐっと上がっているように感じられるが、第1～4問（約70点）は落ち着いて取り組みれば解ける問題となっている。対策としては実用英語技能検定、全商英語検定、GTEC等の問題と類似しているため、検定対策と同様に訓練するとよい。また、空所補充による文法・語彙問題で問われるような表現が多用されるので、リーディング問題を解くためだけでなく、リスニング問題にも問われると思って演習することが望ましい。

●社会

●地理B

今までのセンター試験で出題されていたグラフや統計地図からの読み取り問題に加えて、新テストでは地理の知識をもとに文章を読み取る、新たな形態の問題が出題された。

ワークの内容を覚えるだけでなく、授業を通して教科書内容を理解していく必要がある。基礎知識を固め、模試の問題を解き、理解できなかった問題を解説で確認する習慣を付けよう。

●現代社会

問題数は従来のセンター試験よりも減少したが、資料を読み解き考える問題が増えたため、時間的には余裕がなく、難易度も例年より高くなっている。「倫理」分野はやや減少し、「政治経済」分野と「現代社会の諸課題」中心の問題である。

統計を読み取る形式の設問は、資料をしっかりと読み取れば正解できるものと、知識がないと正解にたどり着けないものの2タイプがあった。後者は、知識を必要としながら、条件を基に考える力が求められるため、問題をたくさん解き、考え方の練習を積み重ねる必要がある。リード文は長文ではなく、会話文やメモ形式がほとんどで、読解に慣れておかないとかなり時間がかかると思われる。

正誤問題も1問出題され、組み合わせを選ぶ形式が大幅に増加している。知識をしっかりと身につけておかないと判断できないので、やはり正確な知識の蓄積と思考力の習得の徹底は必須である。

●政治経済

昨年度のセンター試験と比べて易しい知識問題が減ったほか、ボリュームのある資料読解問題や計算を要する問題が増えて解答に時間がかかり、難易度としては難化した。現社同様、知識の蓄積とそれを生かした判断力・思考力が試される試験であった。

設問のほとんどが文章や図表の資料読解問題で構成されており、資料読解力が問われた。また資料には、最高裁判所民事判例集からの抜粋など、高校教科書には掲載されないような資料が多用され、文章の読解力や図表のデータ理解力が大いに求められる出題であった。

大問のテーマは、第1問が望ましい社会の経済的側面、第2問が民主主義の基本原則と日本国憲法、第3問が現代の経済状況、第4問が日本の国際貢献。第2問は政治分野からの出題だが、他の3問題は経済分野からの出題。ただし第4問は、発展途上国への開発協力と政治分野の融合問題。時事問題の出題も目についた。

正文または誤文を選ぶだけの単純な正誤判定問題は6設問。正文などを「すべて」選ぶ設問が4設問となった。また、1設問で解答数2というかつてない形式も採用された。設問中の文章の空欄補充問題、図表問題、その他の組合せ問題も出題された。



●進路指導部より

いかがだったでしょうか？1、2年生にとってはまだまだ先の話のように感じるかもしれませんが、受験の時はすぐにやってきます。共通テストの問題はほとんどが1、2年生の学習範囲から出題されます。そのため、学習を始めるタイミングは今まさにこの瞬間にあります。今学習している内容、今までに学習してきた内容を復習することで、入試を突破する力は間違いなく付きます。また、3年生の大学受験者の平均学習時間は、平日5時間、休日10時間となっています。つまり、3年生になってこれと同等、もしくはこれ以上の学習時間を確保しなければ合格への道は拓けません。しかし、いざ3年生になっていきなり長時間学習するのは非常に大変なことです。だからこそ、今から少しずつ学習を始めましょう。目標は学年+1時間！1年生なら2時間、2年生なら3時間を目標に学習をしておくことで、受験生になってよいスタートを切ることができます。勝負はもうすでに始まっています。頑張りましょう！

(文責 進路指導部 菊地)

●理科

●化学基礎

新テストということで、ベネッセなどから予想問題が出されていたが、それらと比べると素直な問題傾向であった。大問の1は小問集合であり、主に酸塩基の前までの範囲が出題された。いずれも平易な問題で、普段の授業をきちんと聞き、練習しておけば解ける問題であった。第2問は生徒と先生の会話文で、中和に関する操作や計算を問うものであった。これも難解な問いは含まれず、対応可能であった。強いて言えば、最後の水分含有量を求めさせる問題は、計算過程が複雑であったが、決して難解な計算ではない。これを落としたとしても4点である。落ち着いて準備すれば、十分満点がねらえるものである。

必要とする者は、日々の授業を大切に、即日復習に心掛けて臨みたい。

●生物基礎

例年同様、特定の分野に偏ることなく、幅広い範囲からの出題でした。内容は「生物と遺伝子」から生物の特徴・代謝・遺伝情報とDNAとタンパク質の合成、「生物の体内環境の維持」からホルモン・体液の濃度調節・免疫、「生物の多様性と生態系」からバイオーム・人間活動による生態系への影響、最後に免疫と医療についての設問といった内容。今回初めての大学入試共通テストの新傾向に向けて事前に出された予想問題よりも、大幅に直接的な知識の問題が減少しました。一方、図や資料、実験結果を解析して解答する力が問われる「思考力」を求められた問題が10問と、今までのセンター試験に比べて大幅に増加した。第1問では、「資料を見ながら間違っている箇所を探す問題」や「ピースを当てはめて正しい図を作製する問題」など今までに見たことのない問題が出題された。したがって、知識の蓄積は大前提として、それらの知識をどのように活用し、自ら思考して、その場(試験中)で使えるかが求められる。最も早くその力を付けるには、科学にまつわる新書をたくさん読むことが必要であろう。

●生物

知識問題が大幅に減少し、かつ文章選択問題が増えた。また、実験考察問題の分量が多く、図・表などデータの量が増え、会話形式のディスカッションの内容を読み取る問題もあり、処理に大幅に時間がかかりそうな問題内容である。しかし今年は、選択肢の数が少なく、かつ誤った選択肢が分かりやすいので、全体として易化したようだ。文章読解力があれば、専門の理科の中では比較的高得点が狙える科目だが、今年の易化を受けて難易度の調整がされることは想像できる。科学的根拠に関する長文の文章を咀嚼しながら読む機会を日常的に作り出す必要があるだろう。